

こすど地区公民館報

発行 小須戸地区公民館
〒956-0101
新潟市秋葉区小須戸120番地5
TEL (0250) 25-5715
FAX (0250) 38-5210
編集 公民館報編集委員会

小須戸大正琴愛好会



免疫ヨーガこすど



歌謡ほほえ美会



2017 写真で振り返る 芸能祭

第33回芸能祭が11月12日(日)小須戸まちづくりセンターで開催されました。今年も小須戸幼稚園園児のかわいらしい歌声から大正琴、三味線、ギター、ピアノ、コーラス、民謡、演歌、ダンス、体操など20の多彩な演目が披露されました。出演された17団体の皆さんが、日頃の練習の成果を十分に発揮されたことから会場は大きな盛り上がりを見せ、フィナーレは観客と出演者が一体となって小須戸甚句を踊り会場内を一周しました。

また、当日は来賓の小須戸コミュニティ協議会佐藤副会長の挨拶の後、午前10時に開演し午後1時半過ぎに終演となりましたが、昨年を超える延べ500人の観客を集めました。小須戸地区芸能祭は伝統的に会場設営から当日の運営、後片付けまで参加団体の皆様が手づくりで行っています。参加された皆さん、ありがとうございました。お疲れさまでした。

小須戸幼稚園



民謡よつば会



健康体操



秋葉区芸能協会



小須戸音頭甚句保存会



観客と出演者一体のフィナーレ



すよこ一言

祝マラソン完走

今年の秋、新潟シティマラソンでフルマラソンに初挑戦しました。2か月ほどの練習で完走できるか不安でしたが、当日、スマホへ届いた応援メッセージや、沿道で応援してくれた方々のおかげで、制限時間内でゴールするという目標を達成できました。ゴール直後の感想は最高だ



雪野 亜紀さん (天ヶ沢)

ろうと想像してしまいました。しかし、苦しくて最悪なだけ、もう一度走るなんて考えられませんでした。数日たつと、再挑戦してみたくありません。次にチャンスがあれば、今年よりしつかり練習してタイム

を縮めたいです。走ろうと思ったきっかけは、友人に誘われたからです。初めて練習したとき、1キロすら走り切ることができませんでした。長距離を走る練習は今でも嫌いです。それでも走りたいと思うのは、終わったあとの達成感と打ち上げの乾杯が最高だからです。応援してくださいました皆様、マラソン仲間、時間を与えてくれた家族に感謝しています。ありがとうございました。

花と緑の小須戸は「冬でも花いっぱい」です！



小須戸小学校での花植え 10/11

小須戸小学校では全校児童234人で10月11日(水)に花植え体験としてパンジーの苗をプランターに植えました。1年生から6年生までの縦割り班での花植え作業をみんな楽しそうに行っていました。植えられたプランターは小須戸まちづくりセンターや小学校前通学路に設置されました。

また、11月14日(火)には山の手コミュニティ協議会環境部の「花の会」と「花水隊」の皆さんと矢代田保育園ゆりの園児たちが一緒に矢代田駅周辺に色とりどりのパンジーやピオラを植えたプランターを設置しました。さらに、舟戸公園の円形花壇も同様に植栽しました。参加者は世間話を交わしながら、みんなで協力して楽しそうに作業を行っていました。

この事業は公民館がコミュニティ協議会と連携して、花と緑が少なくなる冬場も地域を彩り、花の植栽作業を通じて地域住民の交流促進を図るため「冬でも花いっぱい運動」として行ったものです。なお、このプランターは矢代田のひまわりクラブや小学校、ふれあい会館、小須戸交番などにも設置されました。



矢代田駅周辺での花植え 11/14

王将 未来のプロ棋士たち

今年7月から月1回、小須戸囲碁将棋愛好会の皆さんが小須戸ひまわりクラブの子どもたちに将棋と囲碁を指導されています。

世間では藤井聡太四段の活躍もあり空前の将棋ブームといわれています。愛好会の藤田進会長は「子どもたちの頭脳は柔軟で上達も早い」と感心していました。

将来小須戸の子どもたちの中から、藤井四段のようなプロ棋士が誕生することを期待しています。



小須戸ひまわりクラブでの将棋指導

2017 芸術の秋 たけなわ ~芸展、区展入賞作品介绍~

第46回芸展

「第46回県芸術美術展(芸展)」(県美術家連盟、新潟日報社主催)が新潟市中央区の県民会館と市民芸術文化会館の2会場で開催されました。

日本画、工芸、書道(前期11/11~11/17)と洋画、彫刻(後期11/19~11/26)の5部門の入賞作品等、計846点が展示されました。

小須戸地区関係では2人の方の作品が入選となりました。おめでとうございます。



【書道部門】入選
「八言二句」
坂井 清龍さん
(小須戸)



【日本画部門】入選
「想(廃墟・持倉鉦山)」
高崎 正道さん
(小須戸文化協会文化部副会長)



第11回秋葉区展

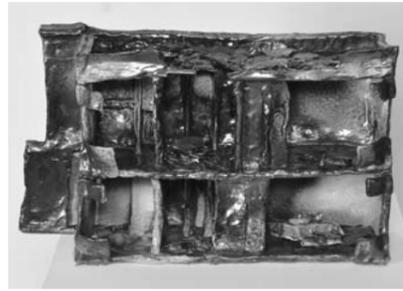
11回目となる「秋葉区美術展(区展)」が10月28日から11月5日まで新津美術館で開催されました。

小須戸地区関係では最優秀賞を1人の方が、また奨励賞を2人の方が受賞され、11月3日の表彰式で賞状と記念品がそれぞれ贈られました。

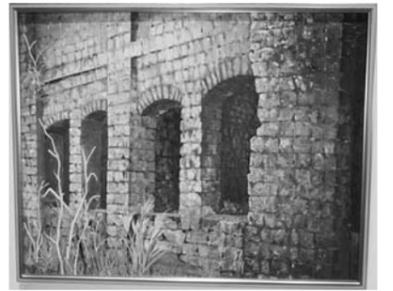


【彫刻部門】最優秀賞
「青年H」
武内 幸彦さん
(松ヶ丘1)

作者のコメント「この作品のモデルは私の息子ですが、息子の性格、特徴等をどのように作品に出すかを考えながら作っていきました。面の構成や粘土のつけ方でそれを表せたかなと思います」



【彫刻部門】奨励賞
「MACHINAMI」
高野 淳さん(矢代田)
作者のコメント「焼き物は楽しいです」



【洋画部門】奨励賞
「想」
高崎 正道さん
(小須戸文化協会文化部副会長)

小須戸地区図書室新刊案内

【一般書】

- ・どんな絵本を読んできた?
(この絵本が好き!編集部)
- ・宝くじで1億円当たった人の末路
(鈴木信行)
- ・日本百名山データBOOK(樫出版社)
- ・労働・社会保険の手続マニュアル
(川端重夫)
- ・これで安心!ケアマネが教えるはじめての親の入院・介護(高岡里佳)
- ・困ったときにすぐひけるマナー大事典
(現代マナー・作法の会)

【児童書】

- ・チャレンジミック!3
(ウォルター・ウィック)
- ・ミック!7(ウォルター・ウィック)
- ・くろくんとちいさいしろくん
(なかやみわ)
- ・なきたろう(松野正子)
- ・ルラルさんのだいくしごと
(いとうひろし)

題材は自由(お一人一句または一首。住所氏名(ペンネーム可)、電話番号を明記し、12月22日(金)までに小須戸地区公民館へ。

俳句・川柳・短歌募集

短歌

柿の実が黄橙々赤甘くなり
なつかしい味鳥も啄む
かさつこそ落葉ふむ音ききながら
散り敷ける道思い乗せ行く
何となく小春日和の外に出で
両腕広げ深呼吸する
庭に百舌もみじの枝に
餌くわえ食する様は野生の姿

玲 泉
吉田まつえ
高橋キヨ
こみけ

川柳

(自由吟) 海釣りの鯛をさばいてハート獲る
(手作り) あかりつけ得意料理で母を待つ
子離れを越えて夫婦の合せ味噌
里帰り母の手作りホッとする
同級会あちらこちらで君の名は

会 田 修
保 科 志
能 登 と し
増 井 都 留
風 間 源 一 郎

俳句

しの笛のひびく境内秋深し
秋澄むや路地の奥よりハーモニカ
オカリナの音色さびしき秋の宵
下校する子等に声かけ秋日和
山の湯で木の実弾ける音を聴く
踏んばってある鐘楼に虫のこゑ
思い出はみな清らかに蕎麦の花
日溜りの庭に一輪石路の花
青柚子を挽ぐつややかな葉もつけて
深秋や痴ほう認めず歩く女
同じ事またも聞かざる夜寒かな
初雪嶺大きな山に見えてくる

丸 山 紀 子
馬 場 綾 子
吉 田 松 子
風 間 幸 子
熊 倉 ひろ 子
佐 久 間 久 子
中 野 太 浪 子
渡 辺 信 子
本 多 玲 子
上 田 ス ミ イ
吉 澤 文 子
間 野 え り

文芸欄

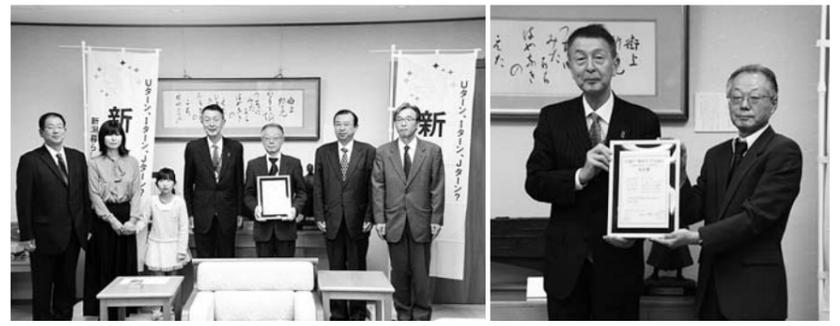
いこてば会員、大学生と一緒に大笑い!

11月16日(木)の地域の茶の間は、新潟医療福祉大学の青木准教授と学生15名、また近隣の介護施設職員などを招き総勢50名で交流会を行いました。学生たちが考えた数種のゲームに、笑い声と歓声で賑やかな楽しい時間を共有しました。大いに体と頭を使った後は、会員が収穫した芋を使って調理したおやつとコミ協健康福祉部葉山副部長の軽快・愉快なおしゃべりに、終始笑顔と笑い声が絶えませんでした。



小須戸地区が移住モデル地区に指定されました

さる11月22日(水)新潟市役所本庁3階市長応接室にて、篠田市長より「移住モデル地区」指定書を受けてまいりました。「移住モデル地区」とは、地域が主体となって移住、定住の取り組みを行っている地区を新潟市が「移住モデル地区」に指定し、地域の方と連携しながら首都圏などへの情報発信や移住者への支援を行うことです。今後は、小須戸コミ協としてより一層移住・定住に力を入れ地域の活性化に取り組んでまいります。



山の手コミュニケーション協議会

小須戸コミュニケーション協議会